

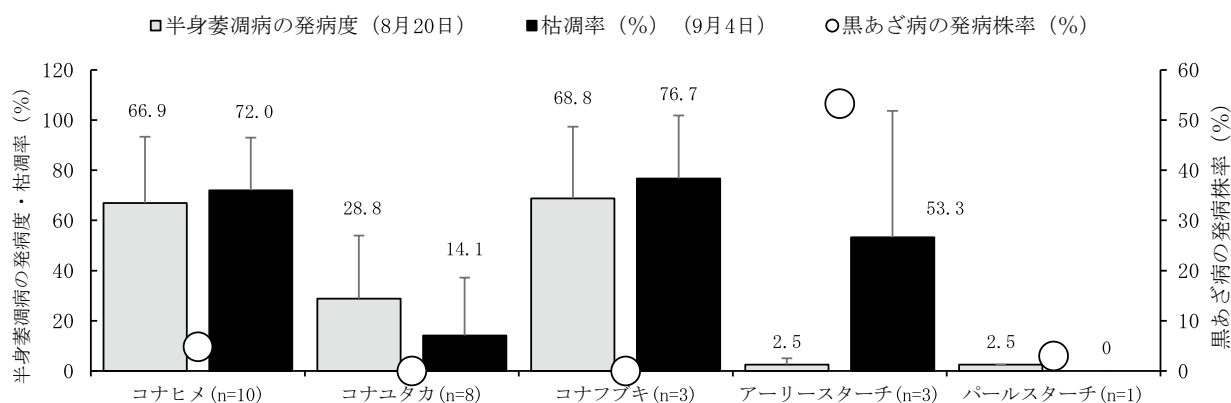


図1 実態調査における土壌病害の発生程度と枯凋率 (%) (2020年)

注1) 「アーリースターチ」が作付けされた2圃場では黒あざ病が多発し、早期に枯凋した。

注2) エラーバーは標準偏差

表1 *V.dahliae* の検出圃場数 (2019~2021年)

年次・場所	調査圃場数	茎維管束褐変部	検出圃場数	
			微小菌核 (個/乾土g)	
			低密度 (10個未満)	高密度 (10個以上)
1994~1995年	35	—	7 (20.0%)	3 (8.6%)
2019年	A町 9	7	6	3
	B町 13	10	9	3
2020年	A町 11	11	6	5
	B町 12	11	9	3
2021年	A町 11	11	2	9
	B町 9	9	6	3
2019~2021年 計	65	59 (90.8%)	38 (58.5%)	26 (40.0%)

注1) 菌種調査はPCR検定による、注2) (): 検出割合

注3) 土壌からの微小菌核検出は、篩い分け-選択培地による

注4) 1994~1995年の調査は当時の網走支庁管内5市町村の結果である

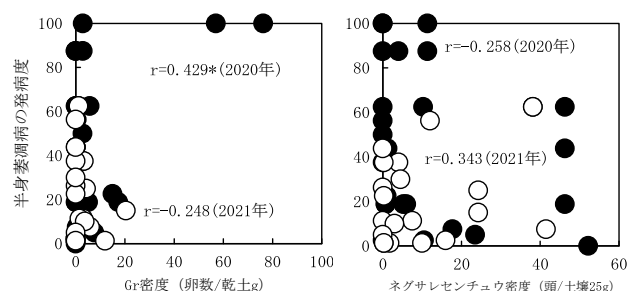


図2 植え付け前の線虫類密度と半身萎凋病の発病度との関係 (2020~2021年)

注1) ●: 2020年 (n=25)、○: 2021年 (n=20)

注2) *: 5%水準で有意

表2 半身萎凋病に対する品種間差とネグサレセンチュウが発病に及ぼす影響 (2020~2021年)

処理	供試品種	年次						累年
		2020年			2021年			
		黄化・萎凋葉率 (%)		判定	黄化・萎凋葉率 (%)		判定	
ネグサレセンチュウ 接種なし	コナヒメ	90.0	a	弱	65.1	a	弱	弱
	コナユタカ	39.8	c	中	38.2	b	中	中
	コナフブキ	35.4	cd	中	43.4	b	中	中
	アーリースターチ	61.5	b	—	39.4	b	中	(中)
	サクラフブキ	36.0	cd	中	28.0	c	強	中
	パールスターチ	18.3	d	強	29.6	c	強	強
ネグサレセンチュウ 接種あり	コナヒメ	95.0	a		70.7	a *		
	コナユタカ	50.6	c **		38.4	c		
	コナフブキ	77.3	b **		54.0	b *		
	アーリースターチ	63.6	bc		41.6	c		
	サクラフブキ	48.3	c *		30.0	d		
	パールスターチ	24.4	d *		29.5	d		

注1) 1/2000aワグネルポット試験、各処理3反復、半身萎凋病菌接種: 土壌ふすま培地40g/ポット、ネグサレセンチュウ接種: 約100頭前後/土壌25g

注2) 同一英文字を付した数値間にはTukey-Kramer法(有意水準5%)で有意差がないことを示す

注3) *, **: 各品種のネグサレセンチュウ有無のペア間でそれぞれ5%、1%水準で有意

注4) —: 2020年の「アーリースターチ」は自然枯凋による黄化を含むため判定していない、注5) 「アーリースターチ」は単年度の評価

詳しい内容については、次にお問い合わせください。

道総研北見農業試験場 生産技術グループ

電話 (0157) 47-2146 E-mail: kitami-agri@hro.or.jp